教えて！ドクターQ&A

㈱宣通 (052)979-1602 広告

Q 50代女性です。「黄斑前膜」と診断されました。視力も低下し、物が歪んで見えます。手術のタイミングはいつ頃がよいですか。

A ものが歪んで見えるというのは、日々の暮らしの中で思いのほか不自由なものです。不安なお気持ちもおありでしょう。黄斑前膜は、目の奥の網膜の表面に薄い膜が張り、それが縮むことで網膜にしわが寄る病気です。

治療は手術でその膜を取り除きます。「目の手術」と聞くと身構えてしまいますが、現在は技術が進み、痛みはほとんど感じずに受けていただけることが多くなりました。

一般的に黄斑前膜の手術の時期は、視力がどれだけ落ちたかよりも、「その歪みがあなたの生活にどの程度影響しているか」です。読書や家事がつらい、趣味が楽しめない、そうした実感があるなら、早めの治療を考えます。しわが長く続くと、術後も歪みが残ることがあるからです。反対に、日常生活に大きな支障がなければ、慌てず経過観察をする選択もあります。

以前は手術は視力0.7未満を目安にすることもありましたが、最近は視力が良くても自覚症状を重視します。「今、どのくらい困っているのか」を主治医に伝え、納得できるタイミングを相談することが大切です。

院長 浅見 哲
(浅見眼科手術クリニック)

1996年三重大学医学部卒業。2004年名古屋大学大学院修了。国立名古屋病院(現・名古屋医療センター)眼科レジデント、豊橋市民病院眼科部長、名古屋大学医学部附属病院眼科医局長、眼科三宅病院副院長などを歴任し、2021年に開業。これまでに培った技術や経験と先進の機器を生かし、患者の目を救うことをめざす。